

8. 学生教育について



教育について

尾 辻 豊

医局では教育に熱心に取り組んでいます。様々な教育活動があります。

学生講義:平成18年度は、「循環器Ⅰ(10回)」「腎Ⅰ(6回)」を3年生に、「循環器Ⅱ(29回、うち9回は心臓血管外科)」「腎Ⅱ(13回)」を4年生に行いました。学外からは退官された直後の中島康秀先生を始め福本晃雄先生・箆島明彦先生・田中 弘先生・八代 晃先生・栗山正己先生に支援をいただきました。心臓血管外科では井本 浩先生・川内義人先生・森田茂樹先生に学外からの支援をいただきました。「総合講義」を6年生に4回、腎臓1回・循環器内科2回・心臓血管外科1回で行いました。

平成19年度は、カリキュラムが変わりまして、「循環器Ⅰ(10回)」「腎Ⅰ(6回)」を3年生に、「循環器Ⅱ(24回、うち7回は心臓血管外科)」「腎Ⅱ(11回)」を4年生に行いました。学外からは福本晃雄先生・箆島明彦先生・太崎博美先生に支援をいただきました。鹿児島大学の鄭 忠和教授に「心不全の治療」をテーマに学生講義をしていただく予定でしたが、当日大雨が降りましてJRがストップし、急遽私の別の講義に差し替えました。心臓血管外科では井本 浩先生・川内義人先生・森田茂樹先生に学外からの支援をいただきました。6年生への4回の「総合講義」は平成18年度と変化なく、腎臓1回・循環器内科2回・心臓血管外科1回で行いました。平成19年度から1年生への「臨床医学入門」が1回、4年生への「遺伝子診断・治療学」が1回増えました。さらに現在では、「学生が臨床実習に入るときに参加資格があるかどうか審査しなければならない」という考えで、4年生の終わりに5年生からの臨床実習に参加して良いかどうか資格を問う国家試験のような試験があります。実際の病歴聴取や理学所見の実習試験がObjective Structured Clinical Examination (OSCE)で、コンピュータの画面に次々に試験問題が出てきて知識を問う試験がComputer Based Test (CBT)です。これに備えて4年生の終わりに60コマの講義や実習を全科で行うのが「臨床診断学」です。私は昨年度から「臨床診断学」の担当者となり、忙しい思いをしています。

ポリクリ:ポリクリの形態は以前と大差ないと思います。実習・見学・担当患者さんの診察等学生は忙しく勉強しています。医局員全体で学生を指導し、胸部レントゲン判読・心エコー実習・心電図判読・心臓カテーテル見学・心RI判読・心エコー判読・不整脈判読・腹膜透析講義・心臓外科講義・心臓外科手術見学・腎生検判読・血液透析の見学や講義等、実際の臨床やそれに近い形での刺激を学生に与えるようにしています。私も毎週6時間程度はポリクリ学生の教育にあたっています。私事になりますが、昨年の12月には私の長男がローテートで回ってきました。次頁写真で私の真後ろの学生が長男です。やりにくくもありましたが、非常に楽しく実習を行うことができました。私の長男ではありませんが、このグループから一人入局してくれそうで、楽しみにしています。

Clinical Clerkship (クリニカルクラークシップ)：現在のポリクリ学生実習をより臨床参加型の実習に高めるべきであるということで、クリニカルクラークシップが全国の大学に導入されています。学生に実際の診療に参加してもらい、指示を書いたり、採血等もやってもらうというものです。これを導入するには大きなプログラムの変革が必要となります。産業医大では平成21年度の導入を目指して、様々な検討を行っているところです。学外での実習も増えていくことになろうかと思っています。その時は是非よろしく願い申し上げます。

以上のように医局では教育に熱心に取り組んでいます。改善点に関するご意見等がありましたら、是非お知らせお願いいたします。



第2内科 医局